

防災タウンページの内容を一部ご紹介

洪水ハザードマップの見方



想定される浸水の深さ

- 早期の立退き避難が必要な区域 3m以上
- 0.5m～3m未満
- 0.5m未満

早期の立退き避難が必要な区域
大雨の際に、一般的な木造住宅を押し流すほどの氾濫流や河岸浸食が発生する恐れがある区域

大雨により、河川が増水し、堤防を越えて水が溢れたり、堤防が決壊したりした場合に浸水の恐れがある区域を、ハザードマップに表しています。ハザードマップは、これまで30年から150年に一度の大雨を想定していましたが、1000年に一度の大雨を想定して見直された洪水浸水想定区域を反映しました。浸水する水の深さの目安を色分けで表示しています。

浸水する水の深さの目安としては、0.5メートルで家屋の1階床面ほどになります。3メートルになると2階の床面ほどの高さになりますので、平屋の家屋は水没の恐れがあります。

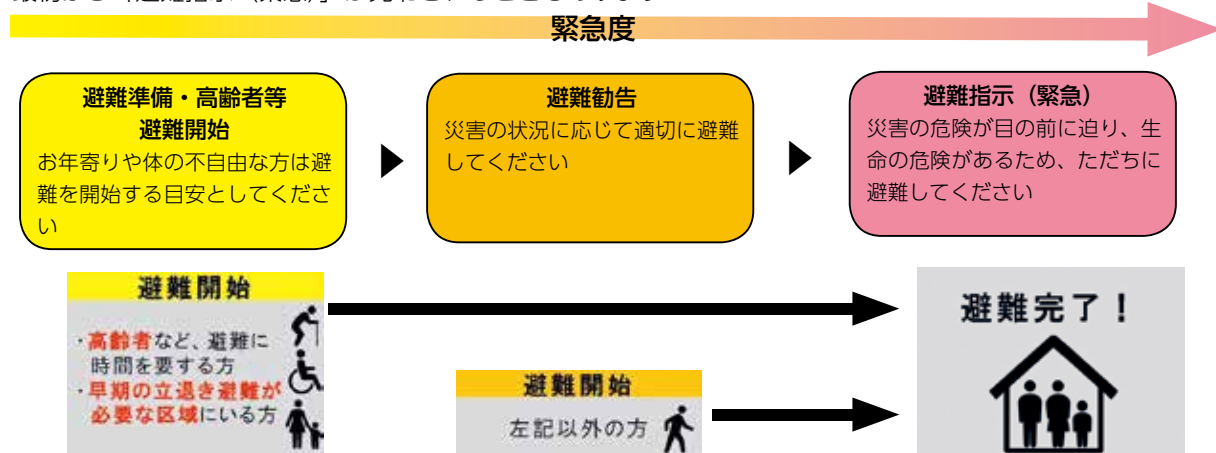
また、浸水の深さが3メートル以上の区域と、「家屋倒壊等氾濫想定区域」に該当する地域を「早期の立退き避難が必要な区域」として設定しています。この区域では、建物上階への避難では安全の確保が難しいので、早めに浸水区域外への避難を心掛ける必要があります。

避難のタイミング

◆災害の発生により危険が及ぶ恐れがある場合等には、仙台市から**避難勧告等を発令**します

※洪水による水害の発生が予想される際は、河川の水位に応じて発令されます

※最初から「避難指示（緊急）」が発令されることもあります



自分と大切な人の命を守るために一みんな確認しよう

◆自宅と周囲の災害の恐れのある区域をチェック

- ☐ 土砂災害危険箇所・土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域
- ☐ 洪水浸水想定区域

◆避難できる場所をチェック

- ☐ 指定避難所や、災害の恐れのある区域の外の安全な建物、知人宅等

◆安全な避難経路を決める

- ☐ できるだけ複数を選定しましょう
- ☐ 実際に歩いて確認しましょう

◆避難行動を確認する

- ☐ 避難方法
- ☐ 情報収集
- ☐ 携帯品等



この特集に関するお問い合わせは減災推進課 ☎214・3048、FAX 214・8096

※この他にも地震発生時の対応や、災害への備えなどの情報も掲載。仙台防災タウンページは市内全戸に配布しているほか、市役所本庁舎1階市民のへや、各区役所・総合支所等でも配布しています

洪水



地震

本年度の仙台防災タウンページでは、水防法の改正により洪水浸水想定区域が見直されたことを受

防災の基本情報—仙台防災タウンページ

本年度の仙台防災タウンページでは、水防法の改正により洪水浸水想定区域が見直されたことを受

土砂災害



津波

▲4種類のハザードマップを掲載しています

全国各地で災害による甚大な被害が発生

西日本を中心に発生した平成30年7月豪雨や9月に発生した平成30年北海道胆振東部地震など、全国的に甚大な被害をもたらす災害が続いています。

災害は、いつどこで発生するか分かりません。災害による被害を防ぐためには、私たち一人一人が自分の身を守るように、日頃から準備をしておくことが重要です。

市では、平成29年度からNTTタウンページ株式会社と共同で、防災に関するさまざまな情報を盛り込んだ仙台防災タウンページを作成・配布しています。9月から本年度版を市内の全世帯・事業所にタウンページに同封して配布していますので、いざというときのためにご確認ください。

また、災害情報の入手方法や災害への備え、災害発生時の行動など、防災の最も基本的な情報もお知らせしています。

さらに、災害による被害が発生する恐れがある区域を示した地図「ハザードマップ」を掲載。平成30年7月豪雨で河川氾濫により大規模な浸水被害が発生した岡山県倉敷市真備町では、浸水範囲がハザードマップとほぼ重なっていたという指摘もありました。この機会にハザードマップで、ご自宅や勤務場所等の周辺について、危険な箇所はないか確認しましょう。

自分と大切な人の命を守るためには、災害の恐れがある区域を知り、情報を的確に収集し、災害が発生する前に余裕をもって安全に避難することが大切です。仙台防災タウンページを活用し、ハザードマップをチェックするとともに、避難できる場所、安全な避難経路、避難行動を確認しましょう。

もしものときに役立つ！

「仙台防災タウンページ」を全戸配布